

世界で求められる人材像と「7つの習慣®」 スティーブン・R・コヴィー博士に聞く

「人格」を重視する 「7つの習慣®」

私はアメリカで出版された成功に関する書籍を研究しました。その結果、昔は謙虚、誠実、勇気といった人格に関するものを重視していました。最近の五十年ではスキルやテクニックなど表面的なものが重視されるようになっていくことが分かりました。

しかし、私は人格という土台があつてはじめてスキルやテクニックが生きてくると考えています。また、たかさんの保護者、教師、経営者と話をしたところ、社会は



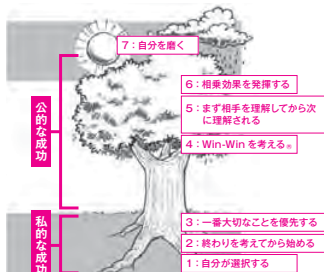
スティーブン・R・コヴィー

◎20世紀に最も影響を与えたビジネス書の1つとされる『7つの習慣 成功には原則があつた!』の著者。リーダーシップの権威として国際的な評価を得ており、フランクリン・コヴィー社の共同創設者・副会長、教師、作家、組織のコンサルタントとして現在でも世界中で活躍しています。



『7つの習慣』(キングベアー出版)はスティーブン・R・コヴィー博士が過去の成功者の実例を基に著した書籍です。世界で2000万部、日本でも140万部を超えるベストセラーとなっています。社会人向けの研修や教育現場、政府機関でも導入され、広く活用されています。

7つの習慣® イメージ図



◎『7つの習慣』では、人間的な成長を「成長の連続体®」と捉え、他人に依存している状態から相互依存へ成長していくまでの過程を7つの習慣としてまとめられています。第1の習慣から第3の習慣までは「私的な成功」と呼ばれており、自分自身が成功するために必要な習慣、つまり、基礎となる根っことして表されています。第4の習慣から第6の習慣までは「公的な成功」と呼ばれており、周囲の人たちと成功するために必要な習慣であるため、外の世界と触れる木の幹として表されています。最後の第7の習慣は、それぞれの習慣の効果を高めて、よりパワーアップするためのものなので、太陽や雨で表されています。

*上記の各習慣は、大人向け『7つの習慣』を10代の生徒向けに分かりやすく言い換えた表現で紹介しています

これからの世界で 求められる人材像

もっと強い人格の持ち主を求めていることが分かりました。「7つの習慣®」は「依存」「自立」「相互依存」という3つの成長のレベルを通して、周りの人とのかわりのなかで、より大きな結果を出すための土台「人格」を育てるものとしてまとめました。

グローバル化が急速に進んでいき、国籍や考え方の異なる人たちと仕事をする機会が増えるに従って、「相互依存」の必要性がますます高まっていくでしょう

う。今までは人格のなかでも「自立していること」が強調されてきましたが、今後は更にその先にある「相互依存」できるレベルに達しなければなりません。具体的には、チームビルディング、協力的な問題解決、相乗効果ということを考えて行動できる人材が求められてくると思います。

相乗効果とは、「私の案」「あなたの案」と異なる考え方があなかで、双方を満たすことの出来るより良い案「第三案」を追求することです。生徒一人ひとりを見ていると、他の人がいないと力を発揮できないというわけではあ

りませんが、他の人と協力することによってより大きな結果を生み出すことが出来る、そういう考えをきちんと育てることが大事だと考えます。(私)でもなく、(あなた)でもなく、(私たち)という単位で物事を考えられる想像力と創造性が、グローバル社会で求められる人材の重要な素養になるでしょう。

「自立」の鍵は自分の 価値を理解すること

とはいえ、「相互依存」のレベルに達するためには、まず「自立」していなければなりません。自

分のなかに誠実さや一貫性をきちんと持ち、自分はどんな人間なのかという確信を持つ必要があると思います。つまり、アイデンティティーを持つことにつながります。残念なことに、今の社会では、自分ではなく、第三者からの見られ方によってアイデンティティーが決め付けられがちです。ですから、生徒一人ひとりの価値、潜在能力を理解させてあげることがとても重要です。先生方には、ただ伝えるだけではなく、生徒が自信を持てるような状態までサポートしてあげてほしいと思います。